



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 28

PROFILE

1967年神奈川県出身。神奈川県立三崎水産高等学校卒業。第一回単独世界一周レース優勝の故多田雄幸氏に弟子入りし、数度のレースクルーとして経験を積む。93年には世界最年少単独無寄港世界一周を達成する。2002年「アラウンドアローン」クラス2で4位の後、06年「ファイブオーシャンズ」クラス1で2位の快挙。子どもたちに実体験を伝える講演活動にも積極的に取り組み、『小学生のための世界自然遺産プロジェクト』プロジェクトリーダーとしても活躍。



海で地球と一体になる

海洋冒険家 白石 康次郎

SHIRAISHI Kojiro

鎌倉の海のそばで育ち、幼いころからこの先には何があるのだろう、自分の目で確かめてみたいと思っていました。なぜこの道を選んだのかとよく聞かれるのですが、すべてはそんな好奇心から始まりました。

夢をかなえる第一歩として、まずは水産高校に進学。とにかく授業が厳しい学校だったのですが、今思えば、“海の厳しさ”を教えるためだったのだと感じます。私がこれまで大きなけがもせず、こうして元気な姿でヨットに乗ってられるのは、高校時代にたたき込まれた教えがあったからだと思っています。

船乗り、海上保安官、海上自衛隊員…、いろいろな選択肢があった中で、私をヨットへと導いてくれたのは多田雄幸氏との出会いでした。彼がヨットで世界一周を達成したことを知って、自分も世界の海を縦横無尽にヨットで渡ってみたいと。一気に夢が広がり、連絡先を調べて家に押し掛け、弟子入りさせてくれと頼み込みました。

しかし実際、世界一周はそんなに甘いものではありませんでした。二度の挑戦に失敗し、本当にくやしかった。でも投げ出したくはなかった。そんな時、私を立ち上がらせたのは、お世話になった造船所の親方の言葉でした。「お前はヨットのお尻をたたきながら走っているよな」と。その時、ハッとしました。海は人間が作ったものではない、自然が生み出したものなのだ。私はこれまで、ありのままの海と向き合っていなかったのだということに気付かされました。

嵐や波を怖がっているのも、世界一周をしたいのも自分自身。海にはそんなことは関係ありません。これまでの自分をすべて捨てた時、初めて海のありのままの姿を見ることができた。そして三度目の正直で、世界最年少で世界一周を達成することができました。二度の失敗がなければ、今の私はありません。海の上で体と心で学んだことは、今でも染み付いています。

ヨットで世界を回っていると、世界

はつながっているのだと実感します。日本の資源の9割以上が海を通じて運ばれていることを、一体どれくらいの人知っているのでしょうか。その“道”となる海の安全を守ることは、私たちの生活にも直結します。日本人としての誇りを持ち、私たちは先進国としての責任を果たしていかなければなりません。

ヨットの上では、当然、多くの厳しさに直面します。だからこそ、海や世界の深いところが見えてくる。私は日本の子どもたちに、失敗を恐れず、挑戦することで生きる楽しさを見いだしてほしい。そのことを実体験として伝えていくため、これからも変わらず、私自身の挑戦を続けていきます。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

なんとかしなきゃ で 検索